

## ○ 22年度は9,500頭出荷を計画—TOKYO X-ASSOCIATION

TOKYO X-ASSOCIATIONは25日、京王プラザホテル八王子で定例総会と生産者交流会を開催し、平成21年度事業報告・決算、22年度事業計画・予算を原案通り承認した。22年度事業では、新たに、TwitterによるTOKYO Xの情報発信、AW（アニマルウェルフェア）認証マーク検討委員会などの事業を行う。役員改選では、植村会長らを再任した。

冒頭、植村光一郎会長（ミートコンパニオン）は、「TOKYO X-ASSOCIATIONは、設立11年を迎えた。21年度の出荷頭数は8,680頭で、22年度は9,500頭をベースに出荷計画が組まれている。昨年度は生産も順調に伸び、海外の生産者との交流も活発に行った。価格志向の中で生産体制の崩壊も言われている中、この50年で変わったものは何か。それは、商品情報、生産者情報、人のつながりであろう。現在、商品はラベルに記された限られた情報に従って買うものになっているが、かつては、販売者との触れ合いにより商品の価値を知り、商品を選択していた。当協会会員は、誇りをもって生産し、素晴らしい商品に出会った時の感動を体験できるような商品作りを目指している」と挨拶した。

来賓の東京都産業労働局農林水産部・農業振興事務所の大川篤振興課長は、「20年度より



21年度の生産が1,300頭も増えたのは会員の努力の賜物。今日の講演のテーマ、動物福祉は、TOKYO Xの当初からのコンセプトでもある。より多くの人に食べてもらえるよう取り組みの強化をお願いしたい」と挨拶した。

総会後の講演会では、日本獣医生命科学大学の永松美希准教授が「ウェルフェアクオリティの差別化」と題して講演。EUでは、2012年までに雌豚のストール飼育を段階的に廃止し、2013年からは飼育スペースの拡大、探査行動が常時可能な環境を要件とすることなどを紹介した。

## ○ DLGで金賞8、銀賞3、銅賞1を獲得、品質の高さ証明—伊藤ハム

伊藤ハムは、ハム・ソーセージの本場、ドイツ農業振興協会主催の国際品質競技会（DLG：本部 フランクフルト）に出品した多数の商品が金賞などを受賞した。

同社は、2007年より品質・技術向上を目的として当国際品質協議会に商品を出品しており、今年度は出品した商品のうち、8商品が金賞、3商品が銀賞、1商品が銅賞という快挙を達成し、同社の技術力や商品品質の高さを証明する形となった。特に、「香り」「あらびき」「うま味」のバランスをコンセプトとして昨年秋より発売した「ベルガヴルスト」（＝写真）は、2アイテムが同時に金賞を受賞したことで、その商品力の高さを実証する結果となった。なお、



受賞した一部の商品は、商品パッケージのほか、店頭の販促物などに「DLG受賞」マークを1年間添付する。